

■ 「バス運転の基本を見直す原点回帰講習」の進め方

ドライバーは車を運転するうえで、

- ・過去の運転経験や事業所・教習所で受けた指導や体験をもとにした認識をもって運転しています。
- ・また、ドライバー自身も持っている過去の経験による運転感覚や車両感覚もあります。

この二つの内容を表面化させ、それを検証することで、ドライバーの判断基準が正しいか？否か？

また、どうすれば事故を防げるか講習を通じて考えもらう講習が「原点回帰講習」になります。

そのためには、意識度や認識度を把握する座学部分と実技検証部分の二つに区分して行う必要があります。

下記、実施順番は、私どもが講習を通じて進めやすく、受講者を飽きさせないと感じている方法です。皆さん方の講習する上での参考にしてください。

I 座学部分
意識度 ①安全確認の意味を簡記してください。
辞書では、「危険なところがないか目で見て判断すること」ですが、自動車運転時の究極の目的は、「交通事故を起こさないための根拠・担保」が安全確認ということになります。
意識度 ②バック事故を防ぐための4つのポイントでの行動と理由
▶ 行動 ▶ 正解 ▶ イ ウ エ ア
▶ 根拠 ▶ 正解 ▶ A B C D
認識度 ①運転車両認識 ▶ 車長 ▶ 車幅 ▶ 車高
認識度 ②-1死角距離 前 左右 ②-2ミラーの視認距離 左右 ②-3ドライバーから車先端までの距離
認識度 ③停止距離 ▶意味(座学時 質問) 空走距離+制動距離
予測 ▶ 5kmと40km時の停止距離 検証 ▶ スマホを使って QRコード読み取りか検索
II 実技検証～ 実施順番は自由です。
①左側端車両感覚検証 ミラーを畳んで、車両左側50cm離し、前部ピッタリ
②死角距離検証とミラー視認距離検証
③バック時、ミラーを介しての車両感覚 左、右、右目視
④バックモニター検証 距離マーカ、バックカメラの視野角検証及び高所障害物検証
⑤高所死角検証 前、左右(バックモニター未装着車は、②死角検証時にすると効果的です。)
⑥信号待ち等における前車との車間距離検証 威圧感・回避追越可能距離等
⑦急制動体験 発進時のブレーキ 踏み替えと構え
⑧内輪差、外輪差検証(前部はみ出し) リアオーバーハング最大はみ出し距離、最大巻込み距離、前最大はみ出し距離
⑨4つのポイントを取り入れたバック駐車方法 (基本・同乗者意識付け・①～⑧を取り入れたバック駐車)
III まとめ～ 認識度調査表の裏面にありますので、受講者に記入させてください。(以後の指導等に活用できます)